

## I 主題設定の理由

### 自分の考えに自信をもち、学びをつなごうとする生徒の育成 ～気づき、深化、つながりを意識した授業を通して～

近年、知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速度的となり、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきている。スマートフォンやタブレットPCなどのICT機器の発達や普及は、これまでの暗記と再生を中心とし、より多く、より長く記憶にとどめることこそが優れて優秀と考えられていた価値観さえも転換させ、考えることや発信することを中心とし、より積極的に、より多様なかかわりを通して課題を解決していくことを求めるようになってきた。このような変化の激しい社会を生き抜いていく子どもたちは、学習内容を深く理解し、生涯にわたって主体的に学び続けていくことが求められている。

本校生徒の実態として、学校での生活や行事に意欲的に取り組み、素直で明るく生活している。全校生徒へのアンケートでは、9割弱の生徒が学校生活や行事に対して肯定的な回答をしている。その反面、学習の目的意識が希薄な生徒が多く、授業に対して受動的になりがちな生徒が多い。さらに、様々な活動の場面で友達との人間関係をうまく築くことができない生徒や自分だけでは物事を判断できない生徒、自分の考えに自信をもてない生徒が見られる。生徒へのアンケートの「自分の考えに自信を持っているか」との質問に肯定的な回答をした生徒は6割程度であり、中でも「はっきりとそう思う」と回答した生徒は、全体の2割にとどまった。また「授業の中で困ったり、難しいと感じたりすることはあるか」の回答では「自分の意見が正しいのか不安になる」や「自分の意見が否定されるのではないか」と思い、発表しづらい」という内容の記述が見られた。

このような生徒に対して、「自らの考えに自信をもたせたい」「学んだことをさらにつなげてほしい」と願い、授業の適切な場面で課題に対する自分の考えをもたせたり、互いの考えを深めて自信をもたせたりするようにすること。さらに、学びを他教科や日常生活に生かそうとする姿勢を養うことが必要であると考えた。

そこで、日々の授業に焦点を当て、教師が各教科の多面的・多角的な見方・考え方を大切にした授業の工夫を図ることで、生徒は自分の考えに自信をもつことができると考えた。さらに、生徒自身が課題に気づき、考えを深め、学びをつなぐことを授業で意図的に設定し、「できたこと」や「分かったこと」をはっきりとさせていけば、学校での学習活動だけでなく、自己の日常生活にもつなげ、生涯にわたって主体的に学び続けることができると考え、本研究主題を設定した。

## II 研究の内容

### 1 目指す生徒像

本校では、目指す生徒像を以下のように設定した。

目指す生徒

『自分の考えに自信をもち、学びをつなごうとする生徒』

## 2 研究仮説

教師が各教科の多面的・多角的な見方・考え方を大切にし、気付き、深化、つながりを意識した授業を行えば、生徒は自分の考えに自信をもち、学びを他教科や日常生活につなげていくことができるだろう。

## 3 研究の手立て

各教科の多面的・多角的な見方・考え方を大切にし、3つの学びを意識した授業を行う。

### (1) 気付く学び・・・学習内容をつかむ学び

授業の導入の場面で、何が課題で、どのようなことを学んでいくか気付かせる。そのために、導入の仕方を工夫したり、課題設定の仕方を工夫したりする。身近なことを疑問に感じさせるなど、生徒に新たな気付きをもたせる。

#### ア 導入の工夫

- 授業で取り上げる内容に関わるアンケートを必要に応じて行い、導入の段階でアンケート結果を発表し、新たな疑問や学級の実態・考えを知らせる。
- 授業内容が日常生活の中で起こりそうな問題と関わりがある場合、その場面を取り上げるなど、生徒に日常生活を想起させる。
- グラフや写真、データなどを提示し、本時の学習内容を予想させ、疑問をもたせる。
- 初見の考えや感想をもたせる場面を設定し、その後の活動につなげる。

#### イ 課題設定の工夫

- 既習事項の復習を行い、本時の内容と比較させながら、課題を設定する。
- 生徒が疑問に思うことなどを書かせ、その中のキーワードから課題を練り上げる。

#### ウ 単元全体を見通した課題づくり

- 単元の全体構想をつかんだ上で、単元全体の学習の見通しをもたせる。

### (2) 深化する学び・・・他との関わりを通して、自らの知識や考えを深める学び

課題に対して、自分で考えたり、生徒同士で話しあったりしながら、学びを深めさせる。そのために、授業の展開時には、中心発問の工夫をすることで、課題解決のヒントとなるいろいろな考え方を取り上げる。このように、話し合うことの必然性を確保した上で、資料やキーワードに着目させながら、自分の考えを表現させる。そして、自分の考えをもとにして言語活動を行うことで、考えを深化させる。

#### ア 中心発問の工夫

- 発問の工夫をすることで、生徒に様々な角度からの視点をもたせたり、課題解決に迫らせたりする。

#### イ 個人での追究

- 生活体験や既習事項を基に、課題に対する答えの見通しをもたせる。
- 相談する時間をとり、自分の考えに自信をもたせる。
- 課題に対する自分の考えや自分の表現したいことをノートやワークシートに記述させるときには、多面的な考察ができるように、複数の資料を提示する。
- 資料の中から、生徒自らが必要とする情報に順位（軽重）をつけさせる。

## ウ 少人数での追究

- 司会の役割や話し合いの手順を明確にし、話し合い活動を円滑に進められるスキルを意識させる。

### 【話すときのスキル】

- ・ 理由や根拠を明確にして話す。
- ・ 友達の意見との違いを明確にして話す。
- ・ 友達の意見に自分の考えを付加するなど、意見をつなげるようにして話す。

### 【聞くときのスキル】

- ・ 友達の意見は、相づちをうちながら聴く。
- ・ 根拠は何なのかを考えながら聴く。
- ・ 自分の意見との違いを比べながら聴く。

- 他グループの様子を見にいく時間を設け、他グループの考えを取り入れさせたり、吟味させたりする。

## エ 発表の工夫

- 書画カメラなどの ICT 機器を用いて発表させ、生徒の考えを明確にさせる。
- ホワイトボードに課題解決に迫るキーワードなどを書かせ、黒板に貼らせる。
- グループの考えをグラフや図にまとめるなど、視覚化することで理解を深めさせる。

## オ 全体での追究

- グループから出された考えを比較したり、分類したりするなど、関連付けさせる。

## (3) **つなげる学び**・・・学習活動（他教科）や日常生活に生かす学び

学習のまとめや振り返りの活動の中で、「できたこと」「分かったこと」をはっきりさせながら、本時の学びを学習活動（他教科）や日常生活に生かそうとする意欲を高めさせる。

また、道徳や総合、特別活動、学校行事など、多くの場面で生かせるようにさせるだけでなく、毎時間の振り返りを繰り返すことにより、自分の考えの変化に気付かせるなど、長期的な期間で生徒の成長を図る。

## ア 学習活動（他教科）や日常生活とのつながり

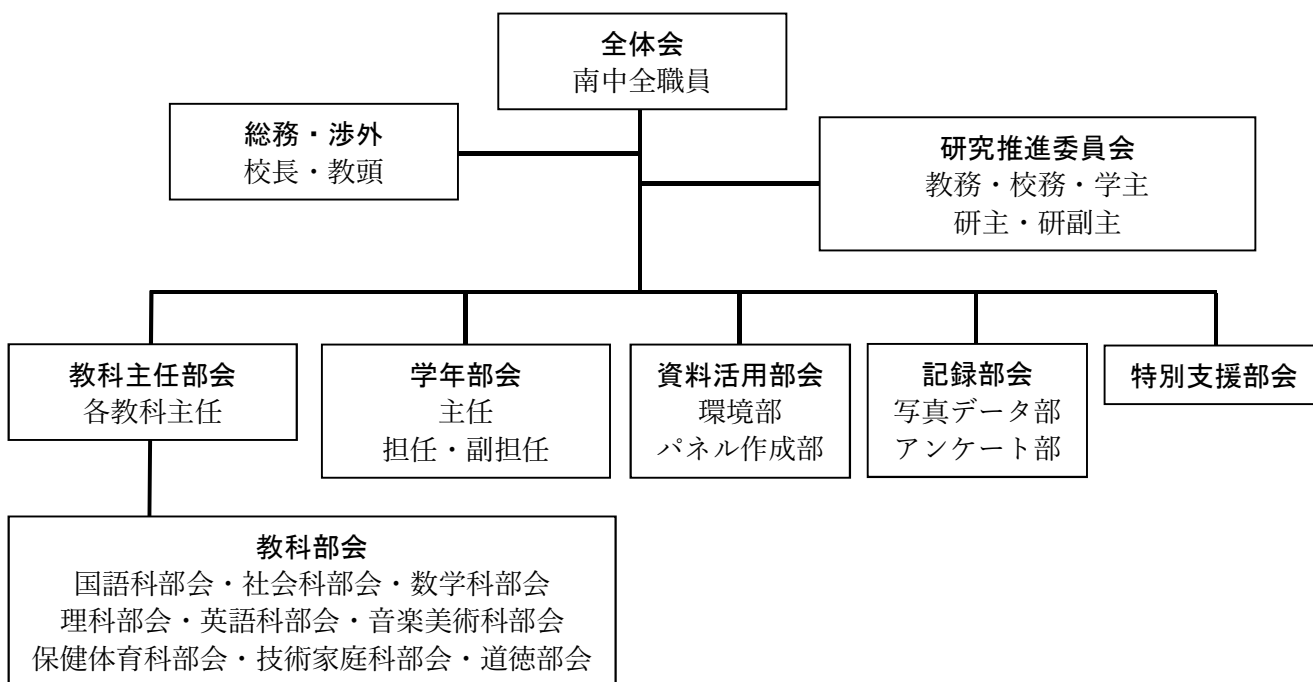
- 教師が他教科や他単元、日常生活の場面で学習内容が生かされている例を紹介する。
- 学習内容を利用した確認問題や発展問題に取り組みさせる。
- 振り返りの中で、他教科や日常生活で役立ちそうなことを書かせる。
- 身近な問題などに「自分なら何ができるか」「どのように関わるか」など、視点を与えて考えさせる。

## イ 振り返りの積み重ね

- 課題解決に向けた学びの中で、自分が身に付けたことやできるようになったことなどを振り返る活動を行わせる。
- 自分の考えた仮説や見通しについて確認させる。
- 単元の最後には、授業ごとに行ってきた振り返りを確認することで、単元全体の学びにつなげさせる。
- 新しい単元の学習では、これまでの振り返りをもとに学習計画を立てさせる。

#### 4 研究の組織

校長・教頭の指導のもとに研究推進委員会を設け、さらに、実務的な役割を果たす5つの部会を設置した。



国語科部会	◎片田・熊澤・高見・松島・深谷	環境部	◎小野山・高村・若山・荻野・川原・鬼塚・片田・島田・田中
社会科部会	◎田中・遠藤・早川・福井・今井	パネル作成部	◎遠藤・下古谷・熊澤・平木・大井・内山・松邨・加藤・金子
数学科部会	◎島田・若山・庄司・内山・平木・廣田・島田・藤本・石黒	写真データ部	◎早川・久保田・庄司・岡本・菱田・仲井・山本毬
理科部会	◎大橋・荻野・藤田・鬼塚・矢島・山本武・前嶋	アンケート部	◎高見・森村・藤田・矢島・深谷・大橋
英語科部会	◎仲井・小野山・大井・谷内・金子・佐藤	特別支援部	◎若尾・前嶋・松島・今井
音楽美術科部会	◎高村・菱田		
保健体育科部会	◎久保田・川原・松邨・山本毬		
技術家庭科部会	◎下岡・加藤・伊藤・若尾		
道徳部会	◎森村・下古谷		

生涯にわたって主体的に学び続けることができる！

自分の考えに  
自信をもち、  
学びをつなごう  
とする生徒

夢

喜び

つなげる学び

考え

自信

思い

深化する学び

特別の教科 道徳

各教科

特別活動

総合的な学習の時間

気付く学び

地域

家庭

学校

学習の目的が希薄である  
友達関係が築けない

受動的な態度である  
考えに自信がもてない